

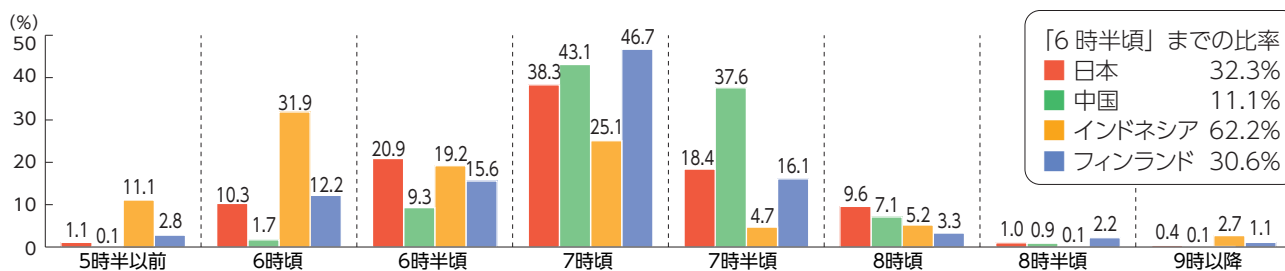
1 幼児の生活

1-1 生活時間

平日、もっとも早く起きるのはインドネシアの子どもである。62.2%が「6時半頃」までに起きている。中国の子どもは寝る時間、起きる時間が4か国の中でもっとも遅く、遅寝遅起きの傾向がみられる。

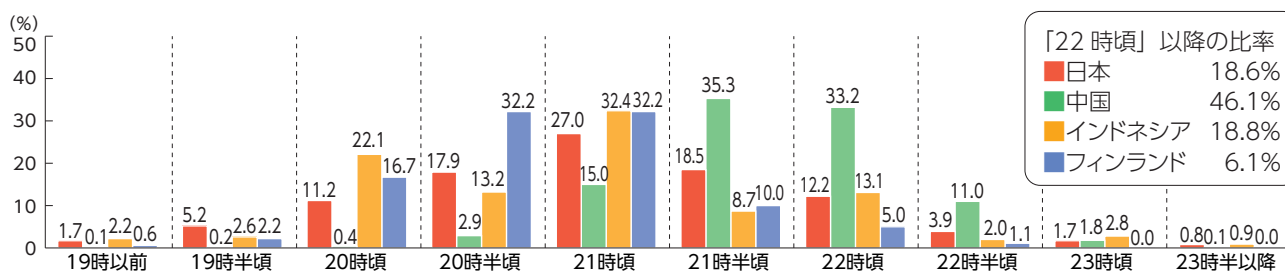
Q 対象のお子様は、平日、何時頃に起きますか。

図1-1-1 平日の起床時刻



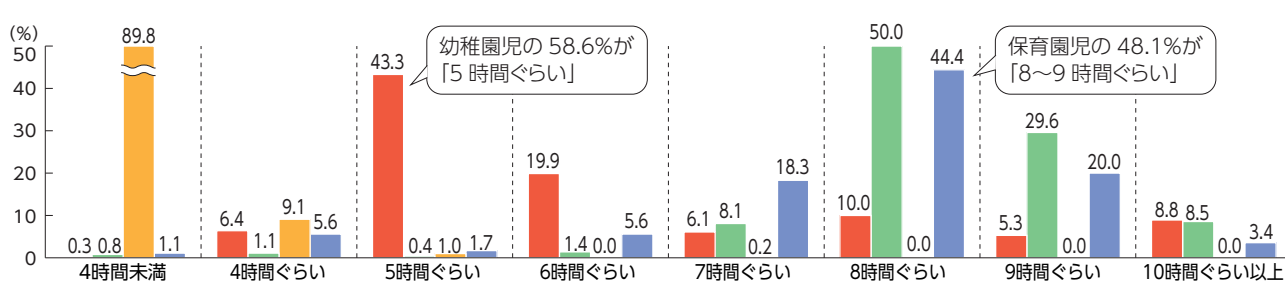
Q 対象のお子様は、平日、何時頃に寝ますか。

図1-1-2 平日の就寝時刻



Q 対象のお子様は、1日のうち、どれくらいの時間を幼稚園・保育園などで過ごしますか。

図1-1-3 園で過ごす時間



※ 就園者の母親のみ回答

※ インドネシアは「3時間未満」(37.0%)と「3時間ぐらい」(52.8%)を「4時間未満」とした。「8時間ぐらい」以上は0%だった

※ 「10時間ぐらい以上」は「10時間ぐらい」+「11時間ぐらい」+「12時間以上」の%

平日、「6時半頃」までに起きる比率は、インドネシアが62.2%ともっとも高く、次いで日本32.3%、フィンランド30.6%、中国はもっとも低く11.1%である(図1-1-1)。インドネシアの子どもが早起きなのは、イスラム教徒の場合は日の出前に礼拝する習慣をもつ親の生活や南国の気候の影響を受けていると考えられる。また、「22時頃」以降に寝る比率は、中国の子どもが46.1%ともっとも高く、次いでインドネシア18.8%、日本18.6%、フィ

ンランドはもっとも低く6.1%である(図1-1-2)。中国は、他の国と比べると、遅寝遅起きの傾向がみられる。園で過ごす時間は、インドネシアでは、「4時間未満」が89.8%ともっとも短い(図1-1-3)。一方、中国の子どもの88.1%は「8時間ぐらい」以上を園で過ごす。日本では「5時間ぐらい」と「6時間ぐらい」が多く、合わせて63.2%となる。子どもが園で過ごす時間は、国によって大きく異なる。

1-2 家にあるもの・幼児の使用(視聴)頻度

テレビの視聴頻度は、中国以外で9割を超えている(週3日以上)。絵本は日本、中国、フィンランドで5割以上、スマートフォンはインドネシアで6割と他の国と比べて高い。

Q ご家庭にあるものについておききします。
お子様は次のものをどれくらい使ったり、読んだりしますか。

表1-2-1 家にあるもの

		日本	中国	インドネシア	フィンランド
絵本	週に3日以上	57.2 ②	66.1 ①	22.3	77.2 ②
	家がない	1.1	0.3	20.9	0.0
ワーク(お子様向けの「ワーク」や「学習用ドリル」など)	週に3日以上	31.7	27.4	38.7 ③	28.4
	家がない	10.5	12.6	17.1	0.0
図鑑(お子様向け)	週に3日以上	13.1	17.1	24.0	15.6
	家がない	27.4	11.7	24.1	3.3
知育玩具(つみ木、ブロックなど)	週に3日以上	41.6	47.5 ③	10.8	46.7 ③
	家がない	2.4	0.1	51.2	2.2
テレビ	週に3日以上	93.3 ①	57.4 ②	96.3 ①	90.0 ①
	家がない	0.5	1.7	0.7	2.8
ビデオ・DVD・ハードディスクレコーダー	週に3日以上	51.2 ③	6.7	38.4	33.9
	家がない	2.9	35.2	25.0	8.3
スマートフォン	週に3日以上	20.1	19.2	63.7 ②	29.4
	家がない	5.1	1.8	12.9	1.7
タブレット端末	週に3日以上	15.4	21.5	27.3	46.6
	家がない	49.0	7.6	57.7	10.6
テレビゲーム	週に3日以上	3.6	2.4	4.0	6.1
	家がない	54.3	41.3	90.0	33.3
学習用電子機器(英会話・文字などの開発専用機器など)	週に3日以上	5.5	16.6	2.1	13.9
	家がない	72.4	23.6	90.7	11.1

※ 「週3日以上」は、「ほとんど毎日」+「週に3~4日」の%
 ※ 「週に1~2日」「ごくたまに」「使わない・使わせない」の項目は表示していない
 ※ 各国の「週に3日以上」の上位3位までの項目に①~③と表示

幼児の家庭にあるであろうさまざまなものやメディアについてきいたところ、「家がない」割合が高い項目が多かったのはインドネシアで、「知育玩具(つみ木、ブロックなど)」、「タブレット端末」、「テレビゲーム」、「学習用電子機器」で5割を超えた。日本では「学習用電子機器」「テレビゲーム」が「家がない」の5割を超え、「タブレット端末」も49.0%でやや高い。

幼児の使用(視聴)頻度を見ると(週3日以上)、「テレビ」は中国を除いた3か国で9割以上と高く、次いで「絵本」はインドネシアを除く3か国で約6割弱~7割を占めてお

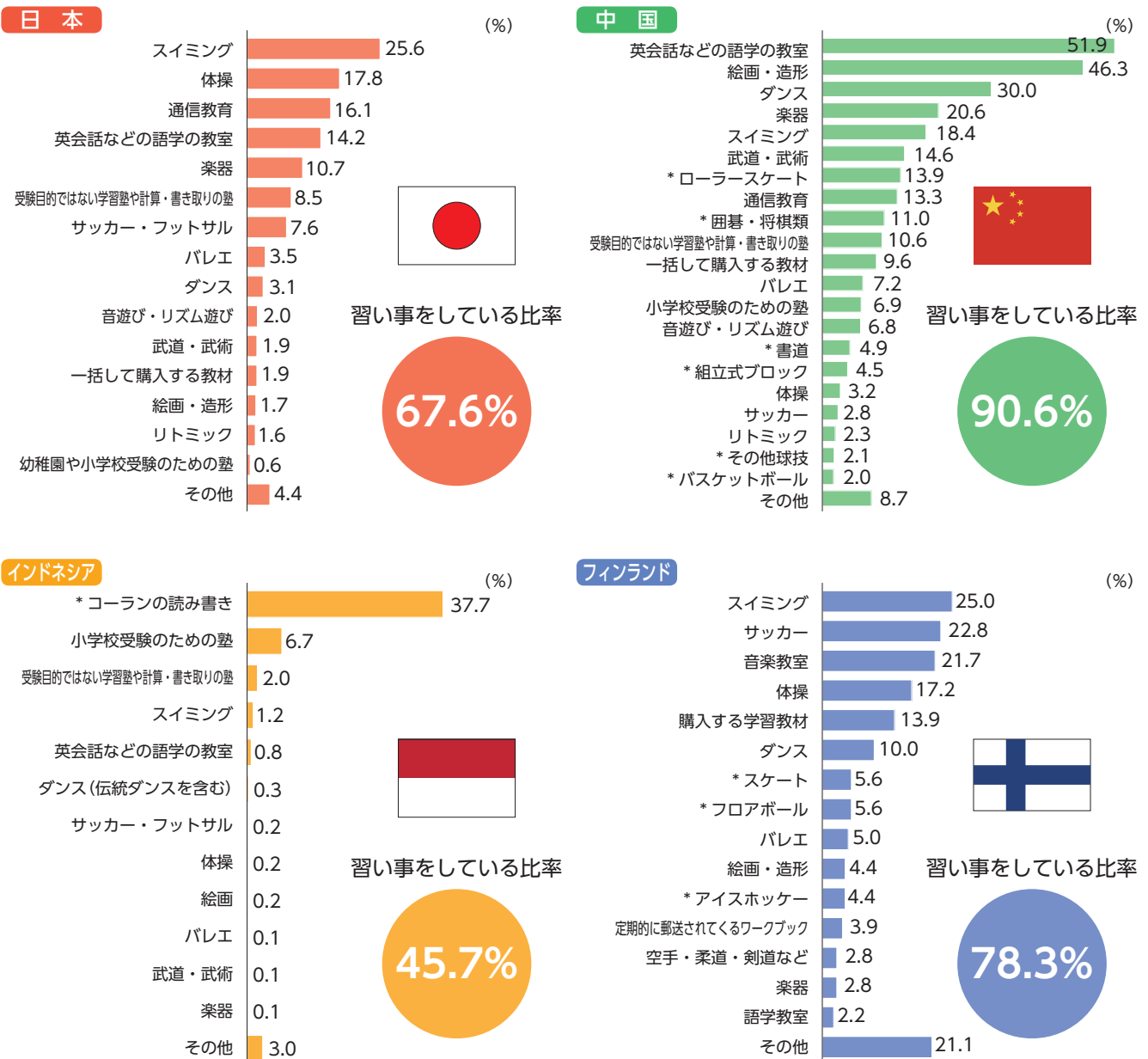
り、「テレビ」と「絵本」が幼児の身近なものであることがわかる。日本では「テレビ」「絵本」に次いで「ビデオ・DVD・ハードディスクレコーダー」(以下ビデオと表示)が高い。中国では「絵本」がもっとも高く、次いで「テレビ」、「知育玩具」の順である。インドネシアは、「テレビ」、「スマートフォン」、「ワーク」の順で、スマートフォンの使用頻度が63.7%と他の3か国に比べて高い。フィンランドは「テレビ」、「絵本」に次いで「知育玩具」と「タブレット端末」が続き、4か国のうち絵本の使用頻度がもっとも高くなっている。

1-3 習い事

習い事をしている比率は、中国がもっとも高く90.6%であり、もっとも低いのはインドネシアの45.7%である。習い事の内容は、いずれの国でも「スイミング」が上位5位までに入る。

Q 対象のお子様は、現在、習い事・おけいこ事をしていますか。
幼稚園・保育園などで有料で習っているものも含めてお答えください。

図1-3-1 習い事



※ 複数回答
 ※ *は、各国で独自に設定した項目および「その他」に記入があった内容で、一定以上の比率だったもの
 ※ 「特になし」の項目は表示していない

習い事をしている比率は高い国から順に、中国90.6%、フィンランド78.3%、日本67.6%、インドネシア45.7%である。習い事の内容は、普及状況や文化や宗教、教育観の影響を受けて異なると考えられるが、いずれの国でも「スイミング」が上位5項目に入る(日本、フィンランドでは1位)。また中国の子どもの51.9%は、「英会話な

どの語学の教室」に通っている。子育て方針(P10)で、中国の母親は「外国語を学ぶこと」に「とても力を入れている」比率が他の国より高いこととも関連しているだろう。インドネシアでは「コーランの読み書き」が37.7%ともっとも高い。地域住民のボランティアが行うことが多いようである。